

6M-HH3 5M-HH3

VHF 周波数変換用双3極管

6M-HH3 は7ピンのMT管で、テレビジョン受像機の局部発振、周波数混合用として特に設計された双3極管です。この真空管は、従来こ

6M-HH3

東芝真空管ハンドブック

の種の用途に使用していた 6J6 にくらべ、同条件ではかなり高い相互コンダクタンスをもち、従って変換コンダクタンスもずっとふえています。高周波増幅に、6R-HH2、周波数混合に 6M-HH3 を組合わせて設計すれば高感度、低雑音のカスコード・チューナーを作ることができます。

5M-HH3 はヒータ・ウォームアップ・タイムが規定されているので、トランスレス・テレビ受像機に好適です。

カソード 傍熱型	5M-HH3	6M-HH3
ヒータ電圧	4.7	6.3V
ヒータ電流	0.6	0.45A
ヒータ・ウォームアップ・タイム(平均値)	11	秒

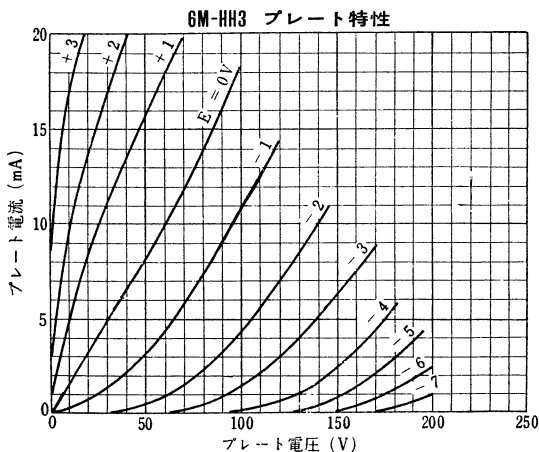
外形 18-2

電極間静電容量 (概略値) (外部シールドなし)

	ユニット 1	ユニット 2
グリッドとプレート間	1.3	1.3pF
入力側	2.4	2.4pF
出力側	0.4	0.4pF

最大定格

プレート電圧	最大	200V
グリッド正電圧	最大	0V



プレート損失	最大	1.5W
ヒータ・カソード間電圧	最大	90V
	(5M-HH3)最大	200V*
グリッド抵抗	(6M-HH3)最大	0.5MΩ

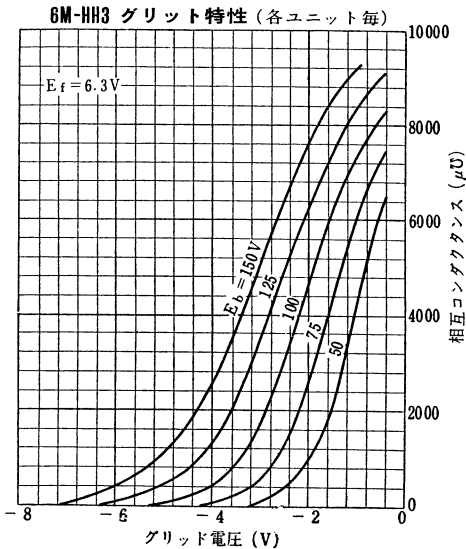
*ヒータがカソードに対して正電位の場合は、直流分は 100V を超えないこと。

A₁ 級増幅用

特 性

プレート電圧	100V
グリッド電圧	-1V
増幅率	38
プレート抵抗 (概略値)	5100Ω
相互コンダクタンス	7500μ Ω
プレート電流	11mA
グリッド電圧 (プレート電流 10μA のとき)	-6V

動作例

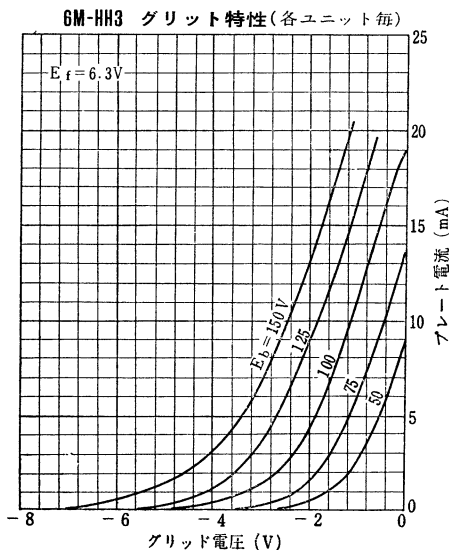


周波数混合用

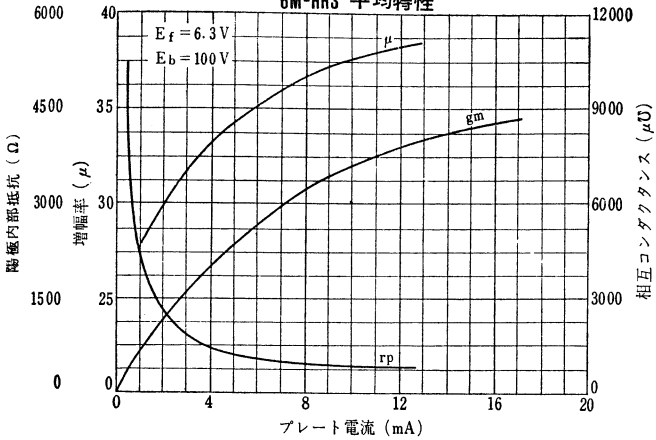
プレート電圧	100	150V
直流グリッド供給電圧	0	0V
グリッド抵抗	250	250k Ω
発振電圧	2	2.5V(rms)
変換コンダクタンス	2500	2900 μm
プレート電流	5.5	10.5mA

使用上の注意

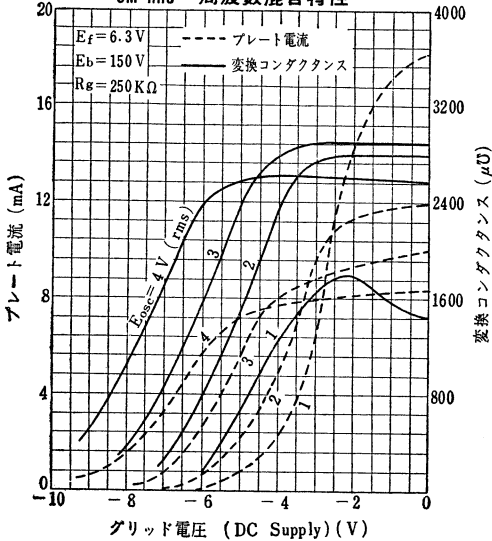
1. 御使用の際はユニット1を混合側に、ユニット2を発振側にして下さい。
2. チューナあるいはスピーカーは、シャッシーを伝わる音声の振動をさけるために、緩衝物質で浮かして御使用になることを推奨します



6M-HH3 平均特性



6M-HH3 周波数混合特性



変換コンダクタンス ($\mu\Omega$)

